

ふれあい

(題字 室原亥十二)

菊南病院 基本理念

利用者に「健康」「希望」「やすらぎ」を、その家族に「安心」を提供することにより、社会に寄与し、職員は「生きがい」と「誇り」を持ちます

基本方針 私達の提供するサービス

1. 「プライマリーケア」
地域の医療・介護の窓口として種々の症状、疾患、問題に対処します
2. 「急性期医療」
緊急、重症の病気に対応します。当院での対応が困難な場合は他の医療機関と連携をとります
3. 「慢性期医療」
慢性疾患、リハビリテーションなどの慢性期医療を外来、入院、及び在宅で提供します
4. 「予防医療」
健康の保持・増進・そして疾病の予防サービスを提供します

看護部の理念

利用者とその家族、そして自分たちの心にもやさしい看護を提供します

Contents

理事長「大蛇とテレビ電話」..... P2	職員紹介・菊南病院 院内各部署発表会..... P5
第2回糖尿病教室..... P2	水前寺高齢者複合施設便り「うりぼう」..... P6
阿蘇災害ボランティアに参加しました..... P3	ドクター古庄のサイクリング紀行(No11)..... P7
夏祭り・ナイストライ・敬老会..... P4	ドクター赤星のスポーツと私(第1回)..... P7

室原内科・小児科

〒862-0949 熊本市中央区国府1丁目11番9号
Tel 096-364-3080 Fax 096-366-4668

菊南病院

〒861-5517 熊本市北区鶴羽田3丁目1番53号
Tel 096-344-1711 Fax 096-344-1726

水前寺高齢者複合施設

〒862-0949 熊本市中央区国府1丁目3番15号
Tel 096-364-1210 Fax 096-364-1221

『大蛇とテレビ電話』

理事長 室原 亥十二

あの滝壺には大蛇が住んでいる。

旧制中学3年生頃、父に連れられて行った深山幽谷絶壁の下には滝壺と洞窟があった。大蛇がいてもおかしくない様な雰囲気だったが、姿は見かけなかった。

それから70年余りの時が流れている。父はその10年後に死亡した。30年後に麓を流れる川には巨大ダムが出来て、兩岸に道が入り自動車でも山奥まで行けるようになった。

平成3年に台風が九州北部を襲い、山林に甚大な被害を及ぼした。山も道も崩壊した。滝壺から流れ出ている谷川も土石流となり、3ヶ所砂防ダムが出来た。その作業道を四輪駆動車で滝壺を目指したが、一帯は荒廃がひどく後退した。

思案にくれていると、ある日テレビ電話を使用することに気付いた。早速2台購入。森林組合の若い職員と再度アタックした。一台を職員が持って山に入り、もう一台を私が車内に持って、現場の状況を画像と音声で送ってもらうという段取りです。

さて職員は藪と立木で荒れ果てた急坂を押し分けてのぼって行き、私は車中より指示したが、ついに滝壺とおぼしき所には達し得ず下りてきた。2時間に及ぶ作戦は、徒勞に終わった。災害によって埋没したのかもしれない。これで私の「滝壺大蛇作戦」は新兵器を用いても幻に終わった。

然し、テレビ電話があれば私は熊本市内に居ながら遠く離れた現地の状況をリアルタイムに画像で交信しあいながら把握できる時代が来たと思うと、足腰の弱った今の私には一筋の光明です。

一席 お粗末ながらこれで終了。



第2回 糖尿病教室

8月4日(土) 14:00 当院「糖尿病診療チーム」主催で行なっている「糖尿病教室」の第2回目を行ないました。まずは各自、「食後2時間の血糖検査」を行ないます。参加者は15名。40代、70代まで幅広く、現在治療をされておられる方とそのご家族。「糖尿病にはなりたくない」という思いで予防のためにこられる方もいらっしゃいました。今月は、「薬のお話」と「日常生活における注意点」について、薬剤師と保健師が講師を担当いたしました。



松田さん

鮫島さん

「薬のお話」では、実際に当院で使っているお薬の特徴と副作用や飲み方の注意点について。(写真・鮫島さん)
 「日常生活の注意点」では、「フットケア」と「シックデイ」について。(写真・松田さん)
 「フットケア」では、「糖尿病性末梢神経障害」になると、足の小さな傷に気づきにくくなるなど、「毎日の自分の足をよく観察しましょう」との話がありました。(写真・フットケア風景)「シックデイ」については、発熱や

2クール目(11月、12月、1月 開催)

	時間	費用	内容1	内容2
1回目	11月17日(土) 14:00~15:00	無料	糖尿病とは (医師)	運動実践 (健康運動指導士)
2回目	12月15日(土) 14:00~15:00	無料	日常生活での注意点 (保健師)	検査について (臨床検査技師)
3回目	1月19日(土) 12:00~13:00	食事代 1,000円	栄養講話 (管理栄養士)	食事体験 (栄養部)



下痢などが続きいつも通りの食事が出来なくなることや、「低血糖」や「高血糖」など血糖値が不安定になってしまい大変危険な状態と考えられます。糖尿病の方は、自己判断せず、かかりつけ医へ相談し、適切な処置が必要です。参加者の皆さん、とても熱心に受講されておりおられました。9月1日の「栄養講話」と「体験食」で3回シリーズの教室が終わりますが、11月から1月まで月1回の第2弾が始まります。前回聞き逃した、もう一度受けて見たい方大歓迎です。どなたでも参加できますので、お気軽にご参加ください。

阿蘇災害ボランティアに参加しました

8月1日(水) 菊南病院より6名(健康管理部・中嶋、荒木、事務部、小川、川述、ラニ部、山下、藤崎)で阿蘇市へ災害ボランティアに行きました。阿蘇市社会福祉協議会が行っている「阿蘇市災害ボランティアセンター」へ到着後、「オリエンテーション」がありました。全て自己責任で協力してもらおうと、怪我や熱中症は、被災された方々の立場に立って行動する事(家庭にお邪魔する事)、プライベートへの配慮を徹底する事、もちろん写真は厳禁」といったお話しがありました。

その後、「マツチング」ブースへ。依頼された申込み書を基に、希望者を募りグループ分けを行います。(〇〇町、屋内の家具だし、畳上げ作業。〇名、車を出せる方」と言った具合に進みます。私たちは、荒木主任が2トトラックを運転できることから、内牧の個人宅へごみ収集を行う事になりました。しかし、私たちが行っている場所がわからない為、別のボランティアの方で内牧に詳しい方に同行していただく事になりました。

その方は、福岡に住んで実家が内牧のため、数日前から帰省しボランティア活動を行なわれておられました。「マツチング」が終わると、「リーダー」を決める必要資料の準備を行ないます(写真参照)。全国から救援物資や必要資料が送られ、シャベル、デッキブラシ、箒、塵取り、一輪車をトラックに積み込み出発しました。



最初に伺ったお家は、1階がほとんど土砂で埋まりとても住める状態ではありませんでした。残念ながら家主が不在で活動が出来ませんでした。「オリエンテーション」の際、くれぐれも家主の指示で行う事となっていました。別件を済ませてもどることにしました。

2軒目は、同じ内牧在住の1人暮らしの高齢者(女性)宅です。玄関前の空き地は3分の2を瓦礫や不要物で埋め尽くされていました。私たちが総勢7名でトラックに積み入れたこと15分。あつという間に終わりましたが、女性の高齢者ではどうしようもなく大雨以来放置され、近隣の方からは「異臭がする」と言われ困り果てられた様子でした。私たちも涙ながらに感謝の言葉を伝えられ、後は自分で出来すから」とままたま続く復旧作業の現状を目の当たりにしました。

その後、「ゴミ集積場」になっていく「総合運動施設アピカ」へ。そこは想像を絶するゴミの山でした。粉じんと異臭が立ち込める中、鉄材とその他に分別し荷下ろし作業を行いました。その後、最初不在だった家主へ連絡すると「必要な申請があるため帰宅は12時半になる」とのこと。一旦、ボランティアセンターに戻る事にしました。すると、台風接近のためその日のボランティア作業は全て中止とのこと。残念ながら、訪問できなかった御自宅へは後日別のボランティアの方が行く事になりました。

その日の活動をリーダー(荒木)が報告し、資材を返却後、借りたトラックの洗車をし作業終了となりました。半日ではありましたが、ボランティアスタッフ一同貴重な経験をすることが出来ました。今回の支援は、ほんの一部の活動です。阿蘇や熊田ではまだまだ手が届かず不便な生活を余儀なくされておられる方が沢山おられます。1人で出来る事は限られ持っています。何か出来る事を抱く気持ちと少しだけ「行動に移す」勇気を持つこと、1人1人の力が「大きな力」になるのではないかと思います。またチャンスを見つけて、引き続き支援を行いたいという気持ちを胸に、終わったボランティア活動でした。

(健康管理部・中嶋)

まぐろなび活き活き健康教室(野外活動)

菊南病院では、地域住民の方を対象に毎月1回「まぐろなび活き活き健康教室」を開催いたします。通常は、運動実践、栄養講話、病院食試食、医師講話の4本立ての教室を行なっておりますが、年に2回、参加者の皆様と野外教室に出かけています。第133回「まぐろなび活き活き健康教室」は36名の参加者と共に、去る9月26日(水)、阿蘇の「ノ宮」内牧周辺を訪れました。

皆さんもご存知の通り、今年7月12日の集中豪雨により阿蘇地域・熊本市北部地域は甚大な被害を受けました。ボランティアの方々や行政による復興作業も進み、阿蘇の景観もやがて平常を取り戻し、営業を再開しているとの情報を聞きました。これまで、「活き活き健康教室」では東北の震災や地震・災害について等、危機管理の勉強会を行ってきましました。そこで、「活き活き健康教室」の皆さんと阿蘇の現状を知り、町の復興に少しでも力になればと思い、今回の野外活動を企画致しました。

まず、最初に阿蘇神社へ参りました。阿蘇神社は孝霊天皇9年創建、十二神を祀る由緒ある神社で、一の神殿、二の神殿、三の神殿、楼門・神幸門・遷御門の6棟は国の重要文化財に指定されており、楼門は「日本三大楼門」に数えられています。その楼門はすべて包み込みこんでくれそうな包容力と凛とした趣で我々を迎えてくれました。早速、皆さん一人一人思い思いの願いを込めて参拝されていきました。その中には願いがすぐに叶った方もおられたようでしたよ。

その後、湧き水あふる杜の門前町商店街を散策しました。うまかもんと水基巡りで、どこか懐かしい風情にふれ、こちよい秋の風を受けながら、店主との愉快なおしゃべりやお買い物に時間を忘れるほどでした。阿蘇司ピラパークホテルでの食事と温泉の後、「阿蘇 道の駅」で買い物をして、帰りは内牧経由で帰ってまいりました。



阿蘇の災害復興ボランティア活動にも参加した、健康管理部 中嶋朋子課長によると、「当時は線路にまでがれきの山が押し寄せ、電車が寸断される中、この57号線が支援活動や支援物資、さらにはみんなの心をつなぐ、まさに復興への道しるべとなっていた」との説明に、皆さん感慨深げでした。目の前に広がる阿蘇五岳も大洪水による爪跡を生々しく山肌に残し、その姿に改めて自然災害の恐ろしさを感じました。今回このような形で阿蘇を訪れましたが、復興にかけるみんなの力強い願いと努力は、また美しくあの雄大な阿蘇五岳の姿を魅せてくれることでしよう。我々は復興支援継続の重要性を身を感じながら、阿蘇を後にしました。野外活動は、9月と3月に年2回行っています。通常の教室も随時受付中です。皆さん是非ご参加くださいませ。お待ちしております。

ふれあい

ア・レ・ゴ・レ

第28回 火の国レガッタ大会出場

平成二十四年七月十六日(祝月)、毎年恒例の火の国レガッタに出場いたしました。今年は男子四クルー女子二クルーの合計六クルー参加。前の週は「経験した事のない雨」で、江津湖もかなりの浸水があり開催も危ぶまれましたが、当日は曇りつない晴天の暑い日、結果は、女子の部は七チーム中、優勝(江崎、稲葉、木村、澤田、小島)、準優勝(藤野、上野、鮫島、雄野、男子の部は十二チーム中、準優勝(古庄、中嶋、市川、和田)と大活躍。いつもの通り、看護部長を中心とした応援団に「手巻き寿司」を作って頂き、選手共々楽しい大会でした。



夏祭り

当通所リハビリテーションでは、八月の二十二日から三日間にわたり毎年恒例の夏祭りを開催しました。天井には、ご利用者様と一緒に製作したちようちんを吊り下げ、職員がはつぴを着て、夏祭りの雰囲気を出しました！どじょうすくいなどの職員による出し物を見ていただいたあとは、ご利用者様にヨーヨー釣りやダーツなどの出店風ゲームに参加していただきました。上位三名にはおみやげとは別に景品が贈られることもあり、一生懸命高得点を狙って

挑戦してくださいました！

皆さまにたくさん笑っていただけて職員一同うれしく思っております。(菊南病院 通所リハビリテーション)



ナイストライ

(中学生職場体験学習)

熊本市立中学校の二年生は全体で約六五〇人とのことである。のべ二〇〇事業所が今年もナイストライに参加。菊南病院も協力させていただき、今年も二校(北部中、西合志南中学校)の生徒九名が医療、福祉分野の体験をしました。「ナイストライ事業」のねらいは、様々な体験活動を通して、子供の勤労観、職業観や感謝する心など豊かな心を培うこと、子供たちの生きる力を育てる。また学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し、三者が連携して、働くことの大切さや喜びを実感させることです。体験中、生徒が医師、薬剤師、看護師、をめぐっていますとはつきり答えてくれた時は、うれしかったです。一人でも多くの学生が医療に興味をもってほしいと願っています。(看護部・大森)



菊南病院 敬老会

九月八日の土曜日午後、敬老の日を前に菊南病院でも、入院患者様、通所リハビリ利用の患者様合計六十八名、そのほかにご家族様も加わり、リハビリ室を貸し切って盛大に敬老会が開催されました。送迎の時間配分、エレベーターの利用状況などケアアワーカたちの緻密な計画のおかげで、事故もなく患者様の笑顔に私自身が元気をいただきました。彼岸花や、藤崎宮秋祭り(馬追い)の話などをまじえ季節を感じて頂きました。北部公民館ボランティアの皆様による童謡や唱歌の合唱、ほとんどご存知の歌ばかりでしたので、たくさんの方たちが口ずさんでおられました。後半は病棟スタッフも加わり、「くまモン」が登場。テンポの速い曲に合わせて、「くまモン体操」がはじまりました。ゆるキャラ日本一に輝いた愛らしい「くまモン」に、思わず笑顔と拍手がかわりました。また、九月十五日には、敬老の日行事食として、栄養部より豪華な昼食が出されましたので、患者様たちには二回お祝いしていただきました。(看護部・大森)





100歳

高橋 ツヤ 様

大正2年2月26日生まれ



菊南病院にご入院中の高橋ツヤ様へ、平成24年9月15日(土)敬老の日を前にして熊本市より百寿の祝い状と記念品が贈られました。100歳という長い時の節目を、ご家族様と一緒に職員もお祝いすることができて大変光栄です。本当におめでとうございます。これからも元気で過ごして下さいね。



一 職員紹介

室原会に平成24年6月2日以降入職した職員をご紹介します。

菊南病院

○看護部 看護師○

○事務部○



川内 敬子 (三病棟)



岩井 緑 (医事課 / 派遣)

よろしくお願
いたします



『第11回 菊南病院 院内各部署発表会』

平成24年8月25日(土)に菊南病院にて院内各部署発表会が行われました。
この院内各部署発表会は年に2回開催されています。
今回も発表内容は多岐に渡り、発表者・聴講者ともに非常に勉強となりました。

〈 演題テーマ 〉

〈 発表者 〉

- | | | |
|--|--------------|---|
| 1. 高運動負荷の空腹時血糖への影響 | 【糖尿病診療チーム】 | 吉村文長 北里堅二 河田一博
田尻隆幸 藤崎 龍 高峰佑貴
木村直哉 |
| 2. 接遇を考える ～マナーと気遣い～ | 【一般病棟】 | 入江照代 菅原真菜美 佐藤りか
元島英子 岩村昌代 |
| 3. 退院希望の強い重症心疾患患者の
介護保険を利用した自宅復帰を経験して | 【リハビリテーション部】 | 金子真一 入江泰子 横寺高弘
四方田優子 天神フサ子
室原良治 赤星隆一郎 |
| 4. 接遇向上における他者評価導入を試みて
～接遇の向上を目指して～ | 【1病棟】 | 春日由紀 岩谷綾 鶴島澄子
浦島奈津美 吉野麻美 |
| 5. 「阿蘇災害ボランティアに参加して」 | 【健康管理部】 | 中嶋朋子 荒木靖隆 小川雄司
山下 俊 藤崎 龍 川述雅裕 |

うりぼう



～ 施設の楽しい行事を紹介します。～

水前寺高齢者複合施設
小規模多機能 いとし
グループホーム 鈴の音
水前寺有料老人ホーム

祝敬老会

9/17 職員の出し物やボランティアの方による三線演奏で盛り上がりました。また今年は職員の家族も参加され、子供達と触れ合いました (*^_^*)



藤崎八幡宮
秋の例大祭??



梅干し体操



子供達からコサージュ
プレゼント



三線演奏



職員の家族も参加
記念撮影



記念品授与

ナイストライ

9/19 ~ 21 ナイストライ (職場体験学習) で
出水中学校の生徒さんが来られました



車椅子の使い方を体験



掃除のお手伝い



レクレーション
に参加



口腔ケア体験

消防訓練

7/30 地域の消防団員の方にも参加していただき
日中想定の避難訓練を行いました!!



訓練終了後に消防団員の方から評価を頂きました



ドクター古庄のサイクリング紀行

菊南病院副院長
古庄 伸行

11. 自転車のルール

昨今、自転車に乗る人が増えてきました。それに伴い、自転車の事故も増え、自転車に乗る人のマナーが取り沙汰されることも多くなってきました。今回は自転車のルールについて書いてみようと思います。

道路交通法では、自転車は「歩行者」ではなくて「車両」に分類されます。そのため、自転車に乗る時は、原則として車道の左端を走ります。高校生の自転車などがよく車道の右端を走っていますが、これはルール違反です。自転車は「車両」ですから、歩道を走ることはできませんが、写真の、丸くて青い標式がある歩道では歩行者の通行を妨げないように、いつでも止まれるゆっくりとした速度で走ることができます。ただし、横並びや、傘差し運転、携帯電話で話しながらやイヤホンで音楽を聴きながらの運転は禁じられています。さらに、暗くなってからの無灯火運転も厳禁です。自転車通勤中や犬の散歩中に、実際に無灯火の自



北バイパス沿いの歩道の交通標識

転車とぶつかりそうになってヒヤリとしたことが何度もあります。

交通ルールを守って、歩行者とも、他の車両とも良い関係を保ちながらサイクリングを楽しみたいものです。

DO
SPORTS

スポーツと私

(第1回 子供の頃の思い出)



院長補佐
赤星 隆一郎

私は今年70才になりました。これまでの生活を振り返ってみると、遊びやスポーツが私にとって非常に大切なものだったことが分ります。子供の頃から外で遊ぶのが大好きでした。今でもその頃の楽しい思い出が沢山蘇ってきます。5才頃から白川(主に明午橋付近)で魚釣りをしたり、夏になると近所の子供総出で泳ぎに行きました。小学2年生頃、ガキ大将に連れられて10数人で、当時寺原田畑と呼ばれていた坪井川の支流に、かいぼり(掻堀?)に行きました。小さな流れの一部をせき止めて水を掻きだし魚を手掴みにするのです。いつもより大量に、しかも大きな魚が取れるので全員夢中になり、気が付くと暗くなっていました。帰ってみると、真っ暗な中に心配した親達が待っていました。その場は安どの声で迎えられましたが、その後それぞれの家ではこっぴどく叱られ、私は夕飯抜きで一時間ほど押し入れに閉じ込められました。

小学3年から父に連れられて八代の手前の千丁に鮎釣りに行くようになりました。そこには知り合いの家があり、4才年上の男の子がいて魚釣り、水泳野球と何でもできるスーパーマンのような存在で、終日一緒に遊んでもらいました。私にとっては夢のような場所で、夏休みは丸々そこで過ごすようになりました。卒業式の日の午後熊本駅から一人で国鉄(今のJR)の列車に乗り千丁に向かいました。一人旅の緊張と共にこれから始まる一か月以上の楽しい生活への期待でワクワク

したものです。

小学4年生の時の遠足で金峰山に競争で登りました。2人の友達と共に学年で一番になり、山登りに対する自信のようなものを得ました。ところで日本のヒマラヤ登山は1952(昭和27)年に始まります。日本山岳会マナスル第一次登山隊がこの年、その2年後に第二次隊が登頂をめざしました。日本人初のヒマラヤ8000m級の登頂は1956(昭和31)年に第3次隊により達成されました。小学6年頃第2次隊の記録映画を見て素晴らしい山の映像と山男たちの逞しさと楽しげな様子に感激し、何時かは自分もヒマラヤに登りたいと思いました。これが私の登山への第一歩でした。



マナスル(8163m)、1956年日本隊が初登頂した。

◆外来担当医当番表◆

平成24年5月7日～

菊南病院

		月	火	水	木	金	土
午前 診療 (9時～12時) 受付 (9時～11時)	1診	室原	赤星	室原	梅田	赤星	室原
	2診	古庄	加古	古庄	加古	加古	赤星
	3診	整形外科 前田(予約)	整形外科 前田(予約)	吉村	寺田	整形外科 前田(予約)	☆梅田(第2,4週) ☆吉村(第1,3,5週)
午後 診療・受付 (13時～17時)	1診	梅田 (予約)	梅田 (予約)	室原 (予約)	室原 (予約)	梅田 (予約)	休診
	2診	大脇	中島	当番医	吉村	禁煙外来 古庄(予約)	
	3診	呼吸器 14時～16時 松岡(予約)	—	神経内科 14時～17時 守屋(隔週)	—	—	

☆隔週で担当が異なりますのでご注意ください。

●休診日：日曜、祝日、年末年始等 ※但し、急患の場合はこの限りではありません。

《その他の教室》 毎月第4水曜日 午前11:00～午後14:00「きくなん活き活き健康教室」

一医師情報一

松岡	呼吸器 ※要予約
守屋	神経内科 ※隔週：第1・第3・第5水曜日

★都合により受付終了時間が早まる場合がございます。ご了承くださいませ★

平成24年4月1日現在

室原内科・小児科

		月	火	水	木	金	土
午前	室原亥十二	室原亥十二	室原亥十二 高血圧外来 (Dr.梅田)	休診	室原亥十二 毎月第二・第四金曜日 腹部エコー検査	室原亥十二 糖尿病外来 (Dr.後藤)	
午後	室原亥十二	室原亥十二	室原亥十二 喘息外来 (Dr.藤井)	休診	室原亥十二 心臓外来 (Dr.室原良治)	室原亥十二 心臓外来 (Dr.室原良治)	

●診察日・時間：月～土曜日(木曜日を除く) 午前8:30～午後6:30

●休診日・時間：木曜日・日曜日・祝祭日・年末年始等

《その他の教室》 毎月第2火曜日 午後14:00より「生きがい塾」

毎週月・水曜日・午前 「ハツラツ健康運動教室」

スポーツの秋、読書の秋、味覚の秋です。
日本人として、25年ぶりのノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥、京大教授の快挙は、世紀の大発見と日本中久々の朗報！心から拍手を送りたい。加齢、老化が進む昨今、一日も早くiPS細胞の臨床応用の実現を祈ります。
菊南病院の基本理念をふまえて医療の現状を真摯にうけとめ、室原会一同、心をついで頑張っています。
「室原内科・小児科」「菊南病院」「水前寺高齢者複合施設」のスタッフの諸活動を記載しておりますので、ぜひお目通し下さい。
中でも、先日の想定外の大きな阿蘇の災害。菊南からのボランティア部隊が現地へ赴き、つぶさな報告には頭が下がります。ご苦勞様!!近郊の人々への絆が心にしみ、行間を通して重さを痛感します。
足場というか、基本というのは実に大切。それがないと流される。流されれば自分を失う。現在は、足場や基本でなく末端ばかりを大切にしている時代にあつて、恐るべきは精神の貧困だと曾野さんは力説しています。
次いで100歳の「高橋ツヤ様」心からお祝い申し上げます。日野原Drも言われる様に、「老いとは衰弱ではなく成熟する事」と説いてあります。
これからますます寒さに向かいます。皆様がどうか健康第一にお過ごしになれますように。今後ともご支援、ご指導よろしくお願いたします。
編集長 室原 鈴子

編集後記

